

和歌山県のウメ産地の現状と衰弱させない

施肥のあり方を考える(1)

和歌山県立南部高等学校

教 諭 谷 口 充

※「産地では収穫作業の省力化が進み、漬け梅主体型のネット収穫が主流になり、収穫期が遅れる上に自然環境の変化等も手伝って礼肥(元肥)のタイミングがずれてウメが衰弱傾向にある。これらの作業体系に対応出来る肥培管理など、ウメの生理を考えた合理的な施肥のあり方を探って見た。」

はじめに

梅は果樹の中でもローカル品種として取り扱われ、近年全国的に栽培気運が高まり、全国総生産量は農林水産統計情報資料(平成9年産)によると136,200トンの生産があり、これまでの最高を記録している。

産地は全国津々浦々にある中で和歌山県の南部・田辺・西牟婁地方が集団産地として最も大きく、全国の50%余りのシェアを占める。平成9年は全国的に大豊作となり、和歌山県ではこれ迄にない史上最高の75,800トンの生産量が記録された。

梅は早春に花を咲かせ、早くも6月に収穫期を迎え、遅くても7月上旬には収穫を終える。

梅栽培では収穫労力に占める割合が最も高く、剪定等の管理作業を含め11月から収穫期の7月上旬までに労力が集中している。

農業は労働を資本とするが、特に梅栽培において労力が収穫期に集中するところが規模拡大を困難にしている。

一方、梅の需要も加工業者の製品開発が購買力を支え、消費面では健康食品ブームにも支えられ、梅干しの効用が消費者に認識されて需要が好調に推移している。

産地では収益率の高い果樹として

受けとめられ、新規就農者数も割合多く、他の作目部門の産地よりも若い後継者が居ることは頼もしい。

ここに来て産地の梅栽培も、大気汚染や温暖化などを自然環境の中で、ウメの生育生理に影響をもたらす、ウメ樹を衰弱させ、ウメ枯れまで引き起こす事例が増え、経営が危うい状況に追い込まれている園地も少なくない。

ここでは現状の栽培管理作業の組立を点検すると共に、変貌する栽培環境を踏まえ、ウメの生理に合わせた肥培管理のあり方を中心に考えてみたい。ひいては大気汚染や環境の変化にも対応出来る栽培管理に繋がるポイントが見えて来れば幸いである。

I. 産地では青梅収穫が減少して漬け梅主体のネット収穫が主流になり、収穫時期が遅れる分、樹に負担が大きくウメは泣いている。

青梅収穫では熟度88%~92%程度の若取りをするが、漬け梅の場合は樹上で黄熟を待って落果したものをネット上で毎日拾い集める収穫方法が定

写真1 漬け梅主体型のネット収穫

- ・ネットを敷設して完熟落果を待って拾い集める。

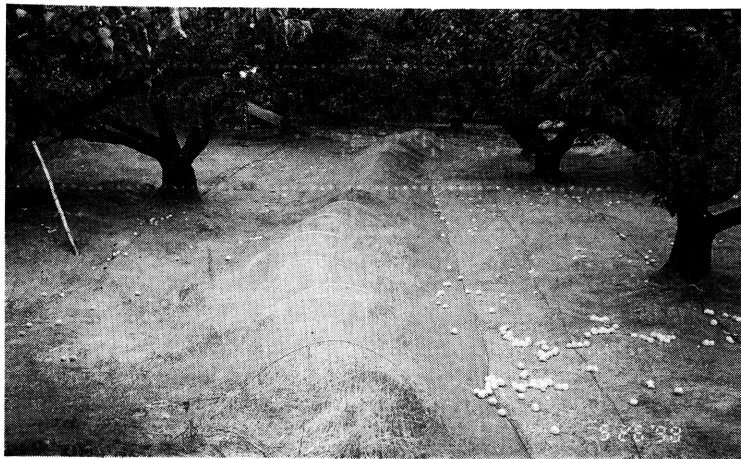


写真 2 収穫が終わればネットは作業の邪魔にならないように集めて結束。



着し、完熟果の収穫に切り替える農家が多く、樹冠下に敷設するネット収穫が主流になって来ている。

このようにネット収穫は収穫期の延長と能率的に集荷出来る点で省力化がはかれる(写真1・2)。

この場合、樹上で完熟を待つことで熟度は一定になり、果皮も薄く減酸はやや進むが糖度も高くなり、果肉内容も充実して品質の向上や収量も増える等、潰け梅加工面から見ればメリットは確か

にある。

しかし、反面デメリットも大きく、肝心の樹勢の維持を考えると、収穫が遅れる上に、ウメにとことん働かせることで、当然、衰弱に繋がり樹体生理から見ると痛手は大きい。

このことから、収穫時期が延伸する上、ネットの撤収に時間がかかり、肝心の礼肥(元肥)の施用が遅れがちで、ウメ樹が要求する樹勢回復の時期を失っている事に気付かねばならない。

ウメの気持ちでは収穫前の6月上・中旬に施肥して栄養補給を行い、収穫と平行しながら成熟中も肥

効が現れて樹の負担を軽くする収穫方法と肥培管理が理想で、遅くとも6月下旬迄に収穫を終らせ、収穫終期に肥効が高まり、梅雨明け迄に樹勢の回復をはかることが大切になる。

① 気候が変化して平均気温の上昇や酸性雨に弱いウメは、近年の早魃傾向が追い打ちをかけ、樹を益々衰弱させている。

近年、気候が変化して梅雨期が早魃であったり、降水量が極端に少ない年が続き(表1)、こうし

表 1 過去6カ年間の月別降水量の推移(南部町)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年合計
H5	106.1	66.1	77.9	177.5	142.2	360.2	307.1	116.8	401.0	151.0	70.0	127.5	2103.0
H6	30.0	72.5	75.5	131.0	88.0	42.2	117.5	□ 32.5	124.9	□ 38.0	84.0	□ 42.0	978.9
H7	□ 18.0	□ 25.5	102.0	86.5	327.0	122.0	235.0	□ 21.7	38.5	234.1	□ 1.5	□ 15.5	1287.1
H8	25.5	□ 8.5	80.0	□ 24.0	□ 54.0	93.5	248.5	□ 61.0	82.5	70.5	127.4	96.0	971.0
H9	31.0	□ 32.0	101.5	173.0	208.5	155.0	279.0	□ 52.5	123.5	□ 47.5	196.6	67.5	1467.6
H10	169.1	108.8	91.4	341.6	200.7	419.1	204.3	□ 42.3	412.1	231.2	□ 21.1	57.1	2298.8
	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	

※ ■…うめ栽培で雨のほしい時期 □…雨の少なかった月(単位mm)

観察…南部高校気象部

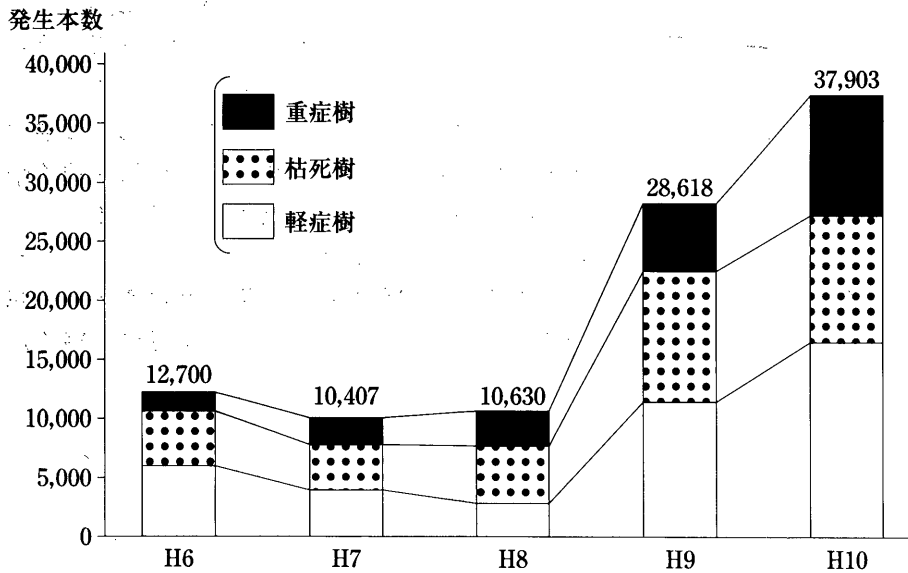
た水分ストレスの累積と、さらに年間を通しての小雨傾向にあったことが、大気汚染による酸性雨等の影響を強く受け、衰弱を益々助長してきたものと言えよう。

② 結実の安定する多収品種ほど成らせ過ぎれば衰弱しやすい特性を持つ。

産地の主品種「南高」は多収性品種であるだけに樹体には過酷な負担を強いられる。

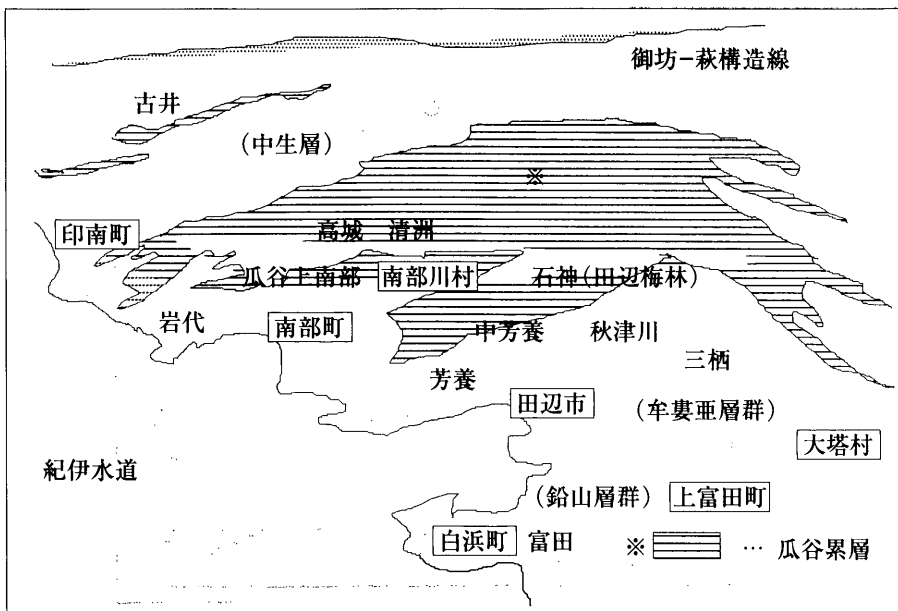
結実が多くなれば樹体の消耗が激しい事は言う

図1 ウメ生育不良樹の発生本数の推移 (南部郷)



※(和歌山県うめ対策研究会)報告資料より抜粋

図2 紀南のウメ産地は瓜谷累層の地域に分布



迄もない。永年性作物であるだけに、こうした樹体への負担は連年重ねて担う事になる。もともと産地の痩せた土壌基盤と近年の厳しい自然環境条件(大気汚染・早魃傾向)から樹勢の低下は避けられず、生育不良を引き起こし、図1に示すように衰弱して枯れる樹も出て、産地では大きな問題になっている。

このような産地情勢の中で、一度衰弱すると回復しにくい品種特性を持つ梅だけに、樹体消耗の激しいネット収穫は省力化および増収には貢献しているものの樹勢回復の手だてが出来ず、これに対応出来る安定生産に繋がる対策に迫られている。

II 衰弱を防ぐ対応は如何に梅の生理に合わせた栽培技術体系の確立が要求される。

※「紀南地域の土壌基盤は痩せている上に、自然環境条件の変化や大気汚染に弱いウメ樹の実態に迫る。」

① 主産地の土壌はウメの生育を抑制して結実を促進する性質を持つ。

産地の土壌は四万十川累帯の第3期層に属し、しかも6,000万年前に出来た若い土層として知られ、主産地の大部分は音無川亜層群の瓜谷累層に属し、この他に請川・牟婁亜層群、鉛山層群等の複雑な地層分布の地域から成り立ち、一部に地核の変動で海底の土壌と入れ代わった礫質の海成洪積層の地域も含まれ、いずれの土層も風化が進んでいない上に鉱物資源に乏しく、図2に示すように瓜谷累層(土壌成分がアンバランス

に含まれる)の地域に主産地が形成されていることが衰弱に拍車をかけている。

② ウメしか育たなかった痩せ地、歴史から土地柄を学ぶ。

江戸時代この地域は作物の育ちも悪く、篠竹や梅しか育たなかった土地柄、生産が上がらず百姓は生活にも困る状況にあった。

当時の田辺藩主安藤直次は、百姓の生活を守るために独自の「おふれ」を出し、梅を免祖として生活の糧に梅を植えることを奨励し、百姓の生活を保護する施策が講じられた。

このようにして今日ある梅産地の基盤が、その当時に出来たもので、劣悪な土壌基盤の上に梅栽培が行われていると言うことが歴史的背景からも伺えよう。

痩せ地は作物にとって栄養生長を抑制して生殖生長に傾きやすいで、当時の品種でも土地柄から結実性を促進していたもので、ウメを導入してきた時代背景は納得出来るよう。

③ 地域の山野に自生する山桜は梅と近縁で、地域によっては姿を消しているが、ウメも大気汚染に弱い。

梅はバラ科の桜属に属し、産地の山野に自生する山桜と近縁である。梅産地に分布する山桜も、ここ10年前から早期(夏季の乾燥時期に入ると)に落葉する樹が現れ、大方の地域で山桜は衰弱傾向にある。海岸線より直線距離にして5~6km以内は、かろうじてその姿を確認出来るが、それより奥地の中山間地では、平成3~4年頃からその姿は見かけない。このように早い時期に姿を消している現状は環境汚染の侵襲を物語っている。

しかし、同じ日高郡でもそれより奥地の寒川や龍神・護摩壇山では、桜は元気に生育してる現状があり、気流の停滞等で大気汚染の影響を強く受けやすい地域(降雨の度に霧が立ち込める)と、受けにくい地域に別れるが、紀南の梅産地の大部分は、こうした大気汚染の影響を受けやすい地域に分布している。(7月号へ続く)

チッソ旭の新肥料紹介

★作物の要求に合わせて肥料成分の溶け方を調節できる画期的コーティング肥料.....

ロング® <被覆燐硝安加里> **LPコート**® <被覆尿素>

★緩効性肥料..... **CDU**®

★セル成型苗用育苗培土..... **与作**®

★硝酸系肥料のNo.1..... **燐硝安加里**®

★世界の緑に貢献する樹木専用打込み肥料..... **グリ・ンパール**®

 **チッソ旭肥料株式会社**